

緑豊ゆたかないなみ野に

「淡河川山田川疏水」は、山やま田川だがわまでの測量そくりようが初めておこなわれてから何度も計画づくりをくり返し、実現じっげんするまでに約百五十年もの長い年月がかかりました。それは、たくさんの人々の力でやりとげた大工事だったのです。

この疏水そすいは、地域ちいきの人々から親しみをこめて「淡山疏水たんざんそすい」の名なで呼よばれています。そして、



今では「東播用水事業」に引きつがれ、稲美町をはじめ、三木市・神戸市・明石市・加古川市にまで広がり、また、米づくりだけでなく飲み水としても役立っているのです。

その恵みを送り続ける淡山疏水には、御坂サイフォンをはじめ、数々のトンネルや分水所、ため池など、外国の技術をふくめ、どれを見ても当時としては最新の土木技術が活かされています。

最近では、この疏水が兵庫県の「近代化遺産」として評価され、国の「水百選」に選ばれるなど、その歴史的・文化的価値にも光があたり始めています。

いなみ野は稲穂が美しい、豊かな田園地帯になりました。疏水とため池と水田が織りなすようすは、他の地域にはない景観です。

雌岡山をうす紅色に染めながら明けていくいなみ野……。

人々がもとめて、夢にまで見た水が、今、優しいせせらぎとなって流れて

います。いっぱいの水を湛たたえながら、朝もやに包まれたため池には、水草の花が咲さき、水鳥たちがゆったりと羽を休めています。

こののどかな風景は、私わたしたちの財ざい産さんです。